

ポルドーオフィスの移転開所式及びポルドー大学インターナショナルウィークに出席

2015/10/22 ポルドーオフィス

ニュース

いいね! 0

シェア

ツイート

メールで送る

平成27年10月22日、筑波大学の大根田修国際室長が、本学の重点協定校の一つであるフランスのポルドー大学 Victoireキャンパスにおける筑波大学ポルドーオフィスの移転開所式に出席し、筑波大学を代表して挨拶しました。ポルドー大学側からは、Manuel Tunon de Lara学長、Helene Jacquet研究・国際・イノベーション・連携担当事務局長、Michel Brousseフランス柔道連盟副会長のほか、フランス国立農業研究所 (INRA) のDominique Rolin教授など、ポルドー大学の著名な研究者が多数出席しました。本式典は、平成25年10月にTalenceキャンパスに設置された筑波大学ポルドーオフィスが移転したことを祝したもので、10月19日から23日にかけてポルドー大学でキャンパスごとに連日開催されたインターナショナルウィークの一環として行われました。

大根田室長は、10月21日から23日の間現地に滞在し、ポルドー大学学長室、国際室、外国人研究者ウエルカムセンターの関係教員や学生から歓迎を受けました。インターナショナルウィーク期間中、筑波大学はブースを設置し、ポルドー大学で学んでいる本学学生などが代表として、ポルドー大学の学生に本学を紹介しました。説明を聞いたポルドー大学の学生は、将来筑波大学で学ぶことについて非常に興味を示していました。

Tunon de Lara学長は、10月22日に開催されたインターナショナルウィークのレセプションにおいて、数百人にも及ぶ教職員や学生の前で、世界中の協定校の中から唯一筑波大学を挙げCampus-in-Campusの取り組みについて紹介しました。続いて、Jacquet事務局長が登壇し海外派遣と受入れを奨励するとともに、現在、ポルドー大学に滞在している外国人研究者に対して歓迎の意を表明しました。大根田室長は、Tunon de Lara学長、Jacquet事務局長、Veronique Debord-Lazaro国際室長、Nicolas Meadeb外国人研究者ウエルカムセンター長と記念品の交換を行いました。大根田室長はまた、ポルドー・モンテーニュ大学 (旧ポルドー第三大学) 国際担当副学長の Ana Maria Binet教授と初めて会見しました。

これらのイベントに先立ち、大根田室長は、Michel Brousseフランス柔道連盟副会長、バイオメカニクスが専門のJulien Morlierスポーツ学部長、ラグビーを専門とするDidier Soulie教授、民衆教育・スポーツセンター (CREPS) で射撃などの競技の渉外担当をするSoraya Lafuente 女史と、これまでも協議してきた柔道・ラグビー・射撃などの体育分野における交流の可能性について話し合いを行いました。大根田室長は、またDebord-Lazaro室長と両校共同で世界の諸地域に乗り出す様々な国際的な取り組みの可能性について意見を交わし、両者は体育分野での交流の重要性、多角的外交、そしてそれらがポルドー大学と筑波大学の双方にもたらす相乗効果について確認し合いました。

さらに、大根田室長は、ポルドー大学滞在中の本学関係者 (ポルドーオフィス・松倉千昭教授、現地スタッフ・Emmanuel Froute氏、木島譲次特命教授、人文社会系・内山田康教授、生命環境系・岡部佳弘助教、国際総合学類学生、フロンティア医科学専攻、ヒューマンバイオロジ学位プログラムの大学院生) と面談し、ミッション、研究、学生生活の状況について聞き取りアドバイスしました。また、大根田室長は、ポルドー大学のMichael Kann教授及び森健太郎教授に対し、長きにわたるたゆまぬ共同研究や教育への支援に対し、感謝の言葉を贈りました。



健康・スポーツ科学における交流促進に関する打ち合わせ後の集合写真



ボルドー大学Victoireキャンパスにおける筑波大学ボルドーオフィスの移転開所式の様子

(左から4番目がTunon de Lara学長, 5番目が大根田室長, 右端が木島特命教授)



インターナショナルウィークのレセプションにおけるTunon de Lara学長の挨拶



インターナショナルウィークのレセプションにおける木島特命教授による挨拶



インターナショナルウィークのレセプションにおけるボルドー大学の吹奏楽団「ロス・テオポロス」による演奏